

「  
史 跡  
芥 川 城 跡

続日本100名城 戦国最初の天下人の城

三好長慶



松永久秀



織田信長



たかつきに、のめりこもう！「BOTTOたかつき」



芥川城想像鳥瞰図(作画:山本尊敏)

#### ■「芥川城跡」の名称(令和4年11月、国の史跡に指定)

これまで「芥川山城跡」と呼んでいましたが、これは、西国街道の芥川宿近くに存在するとの伝承がある「芥川城」と区別するためでした。最新の調査研究の結果、戦国時代の史料に見える「芥川城」がすべて三好山にある山城を指すことが判明したため、このたび、「史跡芥川城跡」と改めました。

#### ① 摂津国最大の山城

標高182.69mの三好山を中心とする城跡は、東西約500m×南北約400mに及び、摂津国最大の規模を誇ります。山裾の三方は芥川が流れる摂津峠の深い峡谷で、敵が攻めにくいたる天然の城塞でした。永正13年(1516)までに摂津を束ねる守護の細川高国が完成させ、築城には昼夜を問わず300~500人が働きました。

#### ② 天下人 三好長慶の居城

高国との戦いに勝利した細川晴元が次の城主となりましたが、天文18年(1549)に家臣の三好長慶によって追放されました。長慶は将軍足利義輝も京都から追い出し、実力で天下(当時の畿内)の支配を開始します。そして天文22年には晴元方から奪取した芥川城へ入り、城は天下人の居城として黄金期を迎えます。

#### ③ 高櫻出身の松永久秀も居住

重臣松永久秀をはじめ、城内には長慶を支える多くの家臣が屋敷を構え、居住しました。芥川城の発掘調査では立派な建物跡が見つかっており、多くの生活道具が出土しています。なお、古くから久秀は高櫻の東五百住(ひがしよすみ)出身だと伝えられ、近年の歴史研究によってその可能性がさらに高まっています。

#### ④ 城郭の遺構が良く残る

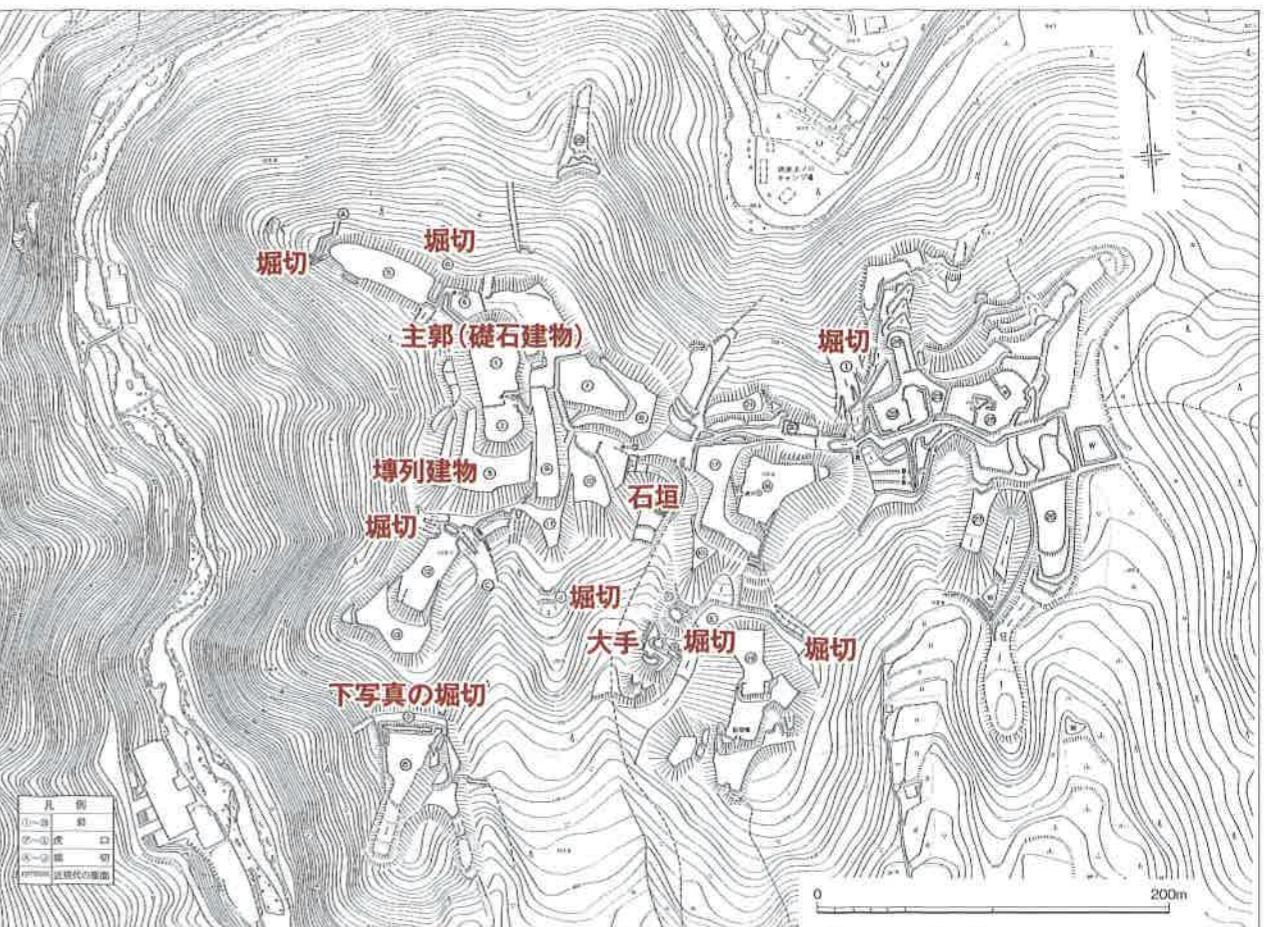
戦国時代の城郭には高い石垣や水堀はなく、山の尾根を断ち切った堀切や土塁(土手)を用いて敵を防ぎました。芥川城にはこれらの遺構が良く残り、山頂の主郭(本丸)を中心に入々が生活した曲輪(くるわ)と呼ぶ広場が確認できます。大手と伝わる谷筋には石垣が築かれ、城主の力を登城者に見せる役割がありました。

#### ⑤ 人々が訪れる天下の政庁

長慶による天下の政治は芥川城で行われ、文芸の場ともなりました。武家に加えて長慶の裁きを求める村人や公家、また連歌師や儒学者など多くの人びとが登城しています。永禄3年(1560)に長慶は城を子の義興に譲りますが、その後も芥川城は三好氏による天下の政庁として機能し続けました。

#### ⑥ 織田信長が天下を引き継ぐ

永禄11年(1568)9月、足利義昭を擁する織田信長は三好氏の勢力を追って芥川城へ入城し、面会を求める多くの武将や商人、さらには天皇の勅使を迎えるました。そして新たな天下支配の枠組みを示した後、念願の上洛を果たします。この信長の行動には、三好氏の天下を引き継ぐ意味があったとも考えられます。



芥川城跡の縄張り図



#### ■堀 切

この堀切は向かって左側が人の背丈を超える土塁になっており、より堀切を深くし、敵の侵入を防ごうとする工夫がなされています。芥川城では要所で堀切が確認され、堅い守りを実現していたことがわかります。



#### ■石 垣

大手の谷筋に築かれた石垣です。大振りの自然石と粗割石を用い、間に小石を詰めて目地が通るように積まれています。中央が崩れていますが、本来は幅12mの谷筋を塞いでいました。現在も2m以上の高さが残ります。



#### ■建物の跡

平成5年の主郭(本丸)の発掘調査では建物の柱を支える多くの基礎石が見つかり、本格的な御殿建築だったと推定されています。令和2年の調査では、一段下の曲輪(くるわ)の可能性を持つ堀(せん)・列建物が確認されました。

年 代	主な出来事
永正13年(1516)	年明けに連歌師宗長が能勢頼則の連歌会で「新城」を祝う連歌を詠んだ。この城が細川高国の築城による芥川城であった。
天文2年(1533)	これ以降、天文5年まで細川晴元が長期在城し、京都からも公家の関係者が登城する。
天文22年(1553)	三好長慶が東の帶仕山に陣を構え、芥川孫十郎が籠る城を攻撃。降伏させた後、自らの居城として入城した。
天文23年(1554)	山城国乙訓郡の上植野村(向日市)と今里村(長岡京市)で水争いが起こり、関係者が登城して長慶の裁きを受けた。
弘治2年(1556)	正月に火災が起き、長慶の子・義興と松永久秀の屋敷が燃える。この後、久秀は京都の醍醐寺から建物を移築した。
弘治3年(1557)	久秀の招きで清原枝賢が儒学を講じる。長慶が連歌師宗養や弟・安宅冬康らと連歌会を催す。
永禄2年(1559)	長慶が市内の郡家村と真上村の水争いを裁く。
永禄3年(1560)	長慶が飯盛城(四條畷市・大東市)へ移り、家督を継いだ義興が城主となる。
永禄6年(1563)	義興が城内で死去。
永禄11年(1568)	足利義昭と織田信長が入城。後に義昭家臣の和田惟政が城主となり、家臣の高山飛驒守(高山右近の父)に預ける。
永禄12年(1569)	宣教師ルイス・フロイスが登城する。和田惟政が高櫻城へと居城を移す。

芥川城関連年表

専用アプリをダウンロードして、どこでも芥川城を満喫しよう！

# ARアプリ 芥川城

3DCGで  
当時の景観を  
再現



## 「AR芥川城」をダウンロード



- ・Wi-Fi環境がなくてもご利用いただけます。
- ・アプリ利用料は無料ですが、ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客様のご負担となります。
- ・スマートフォン端末の種類や天候によって、GPSの精度が低下し、表示位置がずれことがあります。
- ・使用する際には、周囲や足元にご注意ください。
- ・アプリ使用中に転倒、衝突など不測の事故などが発生いたしまして、責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- ・動作環境：iOS 12以上／Android 7以上

iPhoneユーザーの方



Androidユーザーの方



## ■見学に際しての注意事項

- ①駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
- ②付近及び城跡一帯にトイレはございません。
- ③城跡は私有地です。地元の方のご迷惑となる行為は慎んでください。ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ④地下には戦国時代の城郭遺構が埋まっています。地面を掘り起こしたり、遺物の持ち帰りは厳に慎んでください。
- ⑤城跡は整備された史跡ではありません。木が生い茂り、虫や蛇もいます。危険な場所がありますので、ご注意ください。
- ⑥十分な下調べの上、見学は各自の責任でお願いします。

### ■交通案内

J R 高槻駅(北のりば)から、  
高槻市営バス〈塚脇〉(下の口)行きで、  
「塚脇」下車。バス停から徒歩約30分  
(坂道、途中から未舗装)



## 史跡 芥川城跡 続日本100名城 戦国最初の天下人の城

発行／高槻市街にぎわい部文化財課 埋蔵文化財調査センター  
〒569-1042 高槻市南平台五丁目21-1

TEL 072-694-7562 FAX 072-692-4313

印刷／有限会社ニュービット

発行／令和6年